



会期

2024年 **10月28日(月)**
~ **12月25日(水)**
10:00~16:00 (土曜日・日曜日・祝日閉館)

入場無料

日本の教育学研究に重要な足跡を残した**長田 新**(おさだ あらた)は、広島大学の前身である広島文理科大学教授在任中に被爆しました。戦後は同大学の第5代学長として、大学の復興と教育学の発展に力を尽くし、平和教育の礎となる少年少女の被爆体験集『原爆の子』(1951年刊行)を編集しました。

1970年代に大学改革を推進した新制広島大学の第4代学長**飯島宗一**は、在任中、広島大学の原爆被爆の記録を集成し、追悼行事を行い、病理学者としては原爆症を研究するなど、原爆のことに心を砕きました。

奇しくも2人は同じ長野県の出身で、育った地域も近く、同じ学校(現在の**諏訪清陵高等学校附属中学校**)の出身でした。今回は、信州と広島大学と原爆の縁を持つ2人の学長の足跡をご紹介します。



広島大学広報委員会『学内通信』No.228(1983年9月)所収

信州から来た 2人の学長、 原爆を見つめる

長田 新 と 飯島 宗一

広島大学 霞キャンパス ホームカミングデー
特別公開

2024年10月26日(土) 10:00~16:00
※どなたでもご来場いただけます(10月27日(日)は休館です)

会場

広島大学医学部 医学資料館

広島大学霞キャンパス(大学病院前)

主催 広島大学原爆放射線医科学研究所
共催 放射線災害・医科学研究拠点(広島大学・長崎大学・福島県立医科大学)
協力 広島大学医学部
企画・製作 原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部

問い合わせ TEL 082-257-5877原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部

